

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する力 ・様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて捉えることができる力 	<div>本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 67.0%</div> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果から、目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。 ・自分の考えが伝わる文章になるよう、情報の扱い方や書き表し方、根拠を明確にしてまとめて書くことに課題がある。 (正答率 56.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい事柄とその根拠を結び付けたり、事実や事柄を具体的にしたりして書くように指導する。 ・図や表などを用いる他教科でも自分の考えを根拠とともに表す活動を積極的に取り入れ、情報を読み取る機会を増やす。考えをまとめる際には表やベン図などの思考ツールも活用する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の政治、歴史、国際社会における役割を理解する力 ・社会的事象の意味や特色について多角的に考える。 ・我が国の未来を考えようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から得た情報の内容を吟味したり、実生活を社会科との関わりで考えたりする。 ・学校評価における社会科の理解度と教師が把握している実態に差がある。児童は、正しく理解しているつもりでも、その事象に対して正しく捉えられていない可能性がある。 ・学校評価の「自分の考えや意見を安心して発言できる」項目に対して、「あまりできない」「できない」と回答した児童が、学校全体で 21%、高学年では 30～40%であることから、自分の考えをもち議論したり、説明したりする力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報を取捨選択したり、学習内容を自分事として捉えられたりする。資料から読み取ったり、考えたりする力を高める。 ・テストの解きなおしや一斉指導、友達との確認を通して、正しい知識・技能の獲得をサポートする。調べたことを共有する活動を充実させる。 ・安心して発言できる環境を整え、学習の効果を高めるために、他教科との関連や伝え合う活動を意識した授業を展開する。また、日ごろから発言する機会の少ない児童が発言できる場を設定することで

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
----	-------------	--------------------------------	--------------------------

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 61.0% </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の本校の A 層の割合は 26.6%、東京都の 26.4% とほぼ同じ結果となった。昨年度 51% であったのに比較して 24.4 ポイント減と大きく成績を下げる結果となった。D 層が 31.1% と 14 名の児童が全問題の半分しか正答できていなかった。特に、全く正答することができなかった児童が 2 名、1 問のみの正答が 3 名となっていた。 ・領域 A「数と計算」では、示された資料から必要な情報を選び、除法と加法を含む立式をする問題では、正答率が 71.1% と都の平均 78.9% と比較して 7.8 ポイント低い。解答類型をみると無解答や類型にない解答をしている児童が 17.8% を占めた。粘り強く問題に取り組む姿勢に課題がみられた。 <p>東京ベーシックドリルの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ～ 6 学年の平均正答率は 58.8% となり、昨年度の平均正答率より下がっている。正答数が 0 問から 1 問の児童がどの学年にも存在している。特に 6 学年では、すべての問題に正答できない児童が 4 名となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下学年に学習した内容を十分に身に付けていない児童に対しては、個別指導や計算タイム等で、苦手部分の補習を行う。 ・これまでレディネステストの結果から、成績別の 3 展開を行ってきた。今回の結果を受けて、下位層の底上げが急務と考えられるため、中位下位層をより少人数指導で展開しより児童のつまずきに対応できるようにすることも考える。 ・ペア、グループ、全体等での話し合い活動、ICT や付箋を使った交流など、さまざまな交流活動の工夫を行い、児童の考えを広げたり、深めたりする。 ・タブレットを活用し、自由進度学習も含め、より自身の課題に応じた内容や課題を選んで取り組むことができるようにする。 ・言葉や図、表、線分図、数直線等の多様な表現ができるようにする。
--	---	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験結果から得られたことをもとに、まとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査平均正答率は 53%。児童学習調査では、「理科の授業の内容はよく分かる」と回答した児童が約 80% あるものの、エネルギー・地球・粒子・生命に関しての知識の定着が十分でなかった。特に、知識を活用して現象の理由を論理 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験における結果から共通点や相違点について考察し、結論を出す指導の流れを実施する。科学的思考・判断力・探求心を育成するため、グループ活動での課題探究活動を行う。既習事項との関連性を意識して自身の考えを他者に伝わるようにまとめ、伝え合

令和7年度 授業改善推進プラン

		的に説明したり、観察や実験から導いた考えを自分の言葉で記述したりすることに課題がある。自分の生活と理科の授業で学習したことを結び付けて、活用できる力を育むとともに実験や観察を通して学んだことを知識・技能の定着に結び付けていく。	う活動を取り入れる。 ・知識・技能の定着のために、単元ごとの練習問題やプレテストを活用する。 ・ICT を効果的に活用し、タブレット端末で観察記録や写真を共有し、理解の深化をはかる。 ・担任や理科指導教員が理科支援員とも連携してチームティーチング体制を構築する。
生活	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や社会、自然に関心をもち、自分とのかかわりで捉える力 ・自分の体験や気づきを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降、異学年や地域との交流が減少していることを踏まえ、様々な人や場所との関わりや、それらと自分との関わりについて気付いたり考えたりする場を設定することが必要である。 ・自分自身の成長への気づきや次の活動に生かされるような知的な気づきなど、気づきの質の向上をすること。 ・対話的な交流を意図的に実施する。 ・想いを伝える手立ての一つとして、書くことがあることを知らせ、活用場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だけでなく、異学年、保幼、地域との交流の機会を設定し、相手意識や目的意識をもって、活動や表現につなげられるようにする。 ・活動の中で生まれた個々の気づきを、ペア、グループ、全体等での話し合い活動、ICT を使った交流を通して共有する。 ・他教科と連携した指導を行い、様々な活動や体験を通じて、自らの気づきを広げたり深めたりできるようにする。 ・児童の活動のめあてを意識させ、振り返りを通して、次時への課題意識をもたせる。 ・学びの過程に「伝える」場面を位置付け、工夫して表現する機会を多く設定すると共に、多様な表現方法があることを知らせる。
音楽	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中の音や音楽に関心をもち、創造的にかかわり、生活の中で音楽に親しむ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりする力を、更に身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた（言葉のやり取りだけでなく、言葉で

令和 7 年度 授業改善推進プラン

			表したことと音や音楽との関わりが捉えられる) 言語活動を適切に位置付けられるようにする。
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> 経験や交流をとおり、見方や感じ方を広げ、思いや考えを主体的に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 表現する喜びを感じながら、造形的な活動をとおりして知識・技能を身に付けている。めあてを意識して自分なりの表現を追求できるようになってきた。他者の表現にも興味をもち、できるようになったことを実感して振り返り、表現を深められるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを示し、活動をとおりしてどんな力を付けたり発揮したりするのか、児童自身が実感できるようにする。図工ノートやタブレット、鑑賞活動などをとおりして活動を振り返り、学んだことを確かめることで自分や友達の表現のよさに気づき、見方や感じ方を深めるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調理や裁縫の基礎的な知識や技能 生活の中から課題を見出し、解決方法を検討したり、実践の中で表現したりする力 学んだことを活用して生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の学習について 80%以上の児童が分かったと回答している一方、分からないと回答している 17%の児童に家庭科学習の良さや必要性を実感させる。 家庭科の学習が将来に役立つと捉えている児童は多い一方、家庭生活を支える技能について性差による違いや個による興味・関心に違いが見られる。家庭科学習の楽しさや大切さを実感できる授業づくりが求められている。 SDGs や環境問題と家庭科の学習が密接結びついているという視点もって、家庭生活中で学習したことを実践しようとする意欲は高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中に学習課題を見出し、解決を図るための具体的な取り組みを通して、生活を豊かに営むための基礎的・基本的な技能を習得できるようにする。 I C T教材を活用したり、地域などの生活者による学習支援を通して、実践的に生活技能を身に付けられるようにする。 身近な生活と環境課題を関わらせながら考え、学習を進めていくことで、日々の生活において環境や資源を大切にする視点をもたせる。 習得した知識及び技能を日々の生活や、様々な課題の解決に生かしたりできるよう、学習内容と生活を繋ぐ具体的な取り組み課題を設定する。

体	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・
---	-------------	----------------	---------------

令和 7 年度 授業改善推進プラン

			指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む力 運動や健康についての自己の課題の解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温上昇による夏季期間の運動機会の減少や校庭工事に伴って運動量の確保が難しく、運動不足の児童が一定数見られる。 昨年度の体力テストの結果ではソフトボール投げ、20m シャトルラン、長座体前屈の得点が、全国平均・東京都平均と比べ、低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の工事期間中においても近隣校への校庭貸し出し等を依頼し、運動量を確保する。 習得した知識や技能を日常生活や業間体育で活用できる場を設定し、すすんで運動に取り組むことができるようにする。 外部講師を招き、投げ方教室を開催し、投力向上を図る。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、相手意識を働かせながら、自分の思いや考えなどを適切に表現するコミュニケーション力 ・目標に向かって、目的意識や相手意識を働かせてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果によると、「国際科の授業がよくわかりますか」という質問に対し、3～6年生の 86%が「よくわかる」「わかる」と回答しており、意欲的に学習していることが伺える。令和 6 年度から数値が変わっていないことから、4年から6年の児童は、国際科の授業に対する意欲が継続していることがわかる。 ・「英語教育実施状況調査」の分析結果から、外国語の 4 技能（聞く、読む、話す、書く）向上には、言語活動や教師の外国語使用等が重要であることが明らかになっており、外国語教育の、より一層の改善、充実に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「伝えたい!」「聞きたい!」という意欲をもてるようなテーマや題材を設定したり、活動を取り入れたりする。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にする。 ・児童一人一人の学び方や興味や関心に即した適切な指導を行うため、ICT を活用し個別最適な学びの充実を図る。 ・NT とさらなる連携を図り、発達の段階や学級の状況に応じたチーム・ティーチングを行う。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業において、他者との意見交流や自身との対話を通して、自ら課題を見付け、よりよく解決しようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の学校評価の結果から、「道徳の勉強はよくわかりますか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合は令和 6 年度は 96 ポイントであったが、令和 7 年度は 89 ポイント下がった。 ・価値項目の中で、「挨拶をすすんでする」ことに対して肯定的な回答をした児童は 89 ポイントであり、他の項目と比べて肯定的な回答をした児童が多かった。 ・価値項目の中で、「きまりをまもっているか」に対して肯定的な回答をした児童は 90 ポイントであり、他の項目と比べて肯定的な回答をした児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期に行われた「道徳授業地区公開講座」で授業公開や講師による講演を通して、家庭と学校との情報共有を図る。 ・昨年度に引き続き、全学級、授業で自分自身に関することについて取り上げ、自らのよいところを気づくきっかけを授業内で作る。 ・授業での教材文の提示の際に、場面絵を提示することや、発問の工夫により自分事として考えられるようにする。 ・登場人物の心情の変化を通して、自分自身についての振り返りを書かせるようにする。また授業内で発表しあうことで、新たな気づきをさせる。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

		<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値項目の中で、「自分にはいいところがありますか」に対して否定的な回答をした児童は 23 ポイントであり、他の項目と比べて否定的な回答をした児童が多かった。 	
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることについて理解し、行動する力 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成しようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の場を行事予定の中に意図的に設定してきたが、児童数が増え、これまでの活動を見直す必要が出てきたため、縦割り班遊びという形で班ごとの交流を深めることを目的として実施方法や内容を変更している。実施する中で見えてきた課題を次年度や次の行事に生かせるようにする必要がある。 ・児童主体で高学年が運営を行えるように適切な支援を行い、低中学年には、上級生の姿をロールモデルとできるように日常の活動や行事を通して指導を重ね、それぞれの発達段階に応じた目標を自覚させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動のめあてを児童と共に明確に設定し、児童が見通しをもって主体的に取り組むことのできる計画を立てる。児童自身で役割を自覚しながら組織をつくり、分担・協力したり、合意形成をしたりしながら、活発な活動ができるように発達段階に応じた指導を積み重ねる。授業や学級会、委員会活動など日常的な経験によって意識的によりよい人間関係を形成する力を育成する。 ・異学年交流としての縦割り班やペア学年で行う行事を日常的に計画し、上級生のリーダーシップを育み、下級生は上級生の姿から、なりたい自分の姿や将来をイメージできるようにする。 ・めあてや役割分担、達成状況や学びを蓄積し、振り返るために、キャリアパスポートを効果的に活用することで、個人の活動に対する価値付けを行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の課題を設定し、それらを解決するために必要な方法を選択し、追究し続ける力 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習課題を設定することで、児童が主体的に学習しようという意欲を引き出すことができてきた。各教科で学んだ知識や技能を生かし、児童が課題解決に向けてねばり強く探究し続けることができるよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域、自らの将来等、学年で身に付ける力を明確にし、実社会・実生活に生かせる指導計画を立てる。 ・各教科で身に付けた学習内容を活用して課題を追究する方法の選択肢を広げ、問題解決能力の向上

令和 7 年度 授業改善推進プラン

		う支援していく。	を図る。 ・SDGS への取組をすることで、身近な課題に気付き、課題解決をしようとする意欲をもたせる。 ・校内のビオトープを活用した環境学習を推奨していく。 ・来年度の 150 周年行事に向けて、学校の歴史を知り、本校や地域の良さを実感できる活動を取り入れていく。
--	--	----------	---